

新刊紹介

■ 『マッキンゼーが予測する未来——近未来のビジネスは、4つの力に支配されている』

ダイヤモンド社(2017年1月、税込 1,944円)

リチャード・ドップス、ジェームズ・マニーカ、ジョナサン・ウーツェル 著

吉良 直人 (翻訳)



《翻訳者から本書の紹介》



吉良 直人

私たちは超安定的な時代を生きてきた

1983年から2008年リーマンショックまでの25年間で、どのような時期なのかご存じの方はいるでしょうか？ 日本のバブル崩壊から失われた20年を思い浮かべられるかもしれませんが、これは、経済学者ジェームズ・ストックとマーク・ワトソンが「グレート・モデレーション」すなわち大温和と名付けた世界経済の超安定期である。

この期間は、経済の主要指標に一貫した継続トレンドが見られた時代である。金利水準および資本コストは低下し、株式、債券、不動産といった資産価格は上昇を続け、原油から小麦に至る天然資源の供給量は増加し過去最高水準に達した。就業機会は拡大し、それを満たす訓練された労働力の供給は十分にあり、こうした状況は変わらないと思われた。

だが、この安定期の終了から10年で状況はすっかり変わってしまった。

私たちの多くの持つ常識は、この四半世紀に形成されたものであり、そうした前提が今や全て覆されてしまったのである。

リーマンショックにより終わりを告げたこの安定期後の変化は、本書が紹介する4つの強大な力により生み出されたものであり、この4つの力こそが今後の超長期の予測の基本となる、というのが本書の主張である。

世界的コンサルティング・ファーム、マッキンゼーの経営および世界経済の研究所である MGI(マッキンゼー・グローバル・インスティテュート)の3人が、コンサルタントとしての問題認識から導き出したこの安定期以降の異変の原因を、同研究所の継続的調査により4つの強大な力に見出したのである。

未来のビジネスの変化は、この4つの力抜きには語るができない。

ビジネスの近未来を支配する4つの強大な力とはなにか

第1の力は、世界経済のダイナミズムが、中国、インド、アジアの新興国市場に移ってきたことである。18世紀に西欧で起こった産業革命に匹敵する変化が、新興国では最近起こり、経済成長を達成、しかもそうした市場では、都市化が同時進行し豊かな市民が増えていく、その結果、2000年まではフォーチュン500社の95%は先進工業国の企業であったが、2025年までには中国企業が過半数を占めるようになり、売上10億ドル(1千億円超)企業の半数近くが新興国企業になるという。

2番目の力は、技術発展の範囲と規模が拡大し経済的インパクトを加速し増大することだ。生活のあらゆる局面に存在するようになり、影響を与えるようになり、変化が加速することである。またそうした技術をベースに、新しいビジネスモデルが生み出される。

3番目は人口動態の変化であり、世界的に人口増加がピークを過ぎ、高齢化が進み、人口減少に転じていることである。すでにロシア、日本、中国は人口減に入っており、アフリカ以外の国々、特に先進諸国は2060年までに人口減少が進む。その結果、労働力人口は減少し、人材確保が問題となる。特に未解決の問題が、数学や工学など理数系を履修した人材が不足し、一方では単純作業職種の業務では大幅な余剰を生むと想定されることである。

そして4つ目の力が、国際的な貿易、資本、情報の流れ(フロー)の増加である。かつては、北米と欧州のハブ間の結びつきが大半であったが、各地を直接結びつける複雑なクモの巣状の結合にと変化した。特に新興国間の貿易量は過去10年で2倍に増加した。資本の国際移動は、1980年から2007年の27年間に25倍に増加した。国際間の人の移動も1980年には年間2億人であったものが、2009年には10億人となり、世界人口の6人に一人は海外に旅行する勘定となる。

新たに生まれる30億人の消費者

では、こうした4つの強大な力は、どういった変化を世界もたらすのだろうか。その一例が膨大な消費層の出現である。つまり新興国を中心に、極度の貧困層を脱し買い物をする余裕のある消費層に入ってくるのだ。1990年から2010年の20年間に、世界人口の中の10億人が移動を果たしたのだが、2025年までに更に30億人が加わると予測している。

私たちに重要なことは、こうした新たに加わった消費市場や変わりゆく社会にどう取り組むかであり、それは経営者にとどまらず政策決定者など各界のリーダーにとって重要な課題である。

つまり、自らの経験から導かれた直観力を捨て去り、見直す必要があるのだ。自分の直観力を形成してきた前提が、大きく変わってしまう現在から未来、これまで当たり前だと思われた意思決定が間違ってしまうのである。

本書には、この4つの強大な力によって、どのようにドミノが動いていくのか、さまざまな事例が描かれている。グラフィカルなマクロデータも用意されていて、長期トレンドを占う資料編としても価値のある本書を用いて、直感力を築きなおそうではないか。

☆☆☆